

岐阜県における日本庭園の保全

造園緑化コース

1. はじめに

私が今回、岐阜県内の日本庭園の保全状況をテーマにした理由は2つある。1つ目は、私は日本庭園が好きなので日本庭園をテーマに論文を書きたかったからだ。2つ目は、国際園芸アカデミーでの2年間、京都でインターンシップを2回行い、寺社仏閣の庭園の管理を数回行ったことで、寺社仏閣の庭園の管理に興味を湧いたからだ。今回、学校のある岐阜県内の日本庭園の保全について調査をおこなった。

2. 岐阜県における日本庭園

岐阜県内に日本庭園がどれくらいあるのか、書籍、インターネットにより収集した。具体的には、『岐阜県造園史』¹⁾、庭園情報メディア【おにわさん】(oniwa.garden)²⁾などを参考に、岐阜県における日本庭園一覧を作成した。

その結果、67庭園を挙げる事ができた。リストによりわかったことは、時代的には江戸中期から末期が多く、地域は中濃地域が特に多いことが分かった。

3. 近隣の日本庭園の歴史

可児市から近く、歴史的価値がある庭園について10庭園を選んだ。それらの庭園、沿革、建物の歴史を調査した。その結果、自然災害によって形が変わってしまった庭園や、移築された庭園などが認められた。

4. 日本庭園の保全の調査方法と現地調査の方法

日本庭園の保全の調査するにあたって、加藤友規氏の論文³⁾を参考に以下3点にまとめた。

- (1) 歴史と管理者 庭を調べるにあたり、庭の歴史と管理者を調べる必要がある。歴史とともに庭園の周辺環境の景観、それに伴う経年による園内の植栽の樹高や樹種の変化がある。その変化に歴代の管理者がどのような対応をしてきたのか、調査する必要がある。
- (2) 過去の景観と現在 過去と現在の景観について古写真を使って比較する。それにより、周りの景観、植栽、石組みがどのように変化したのか調べることができる。
- (3) 古写真と現状写真の比較所見 古写真と現状を見比べる際、園路、石、庭園外の眺望、樹木を特に比較する。

5. 現地調査

文献調査をした10庭園のうち、学校から近く、現地調査を受け入れて頂けた愚溪寺について、現地調査をおこなった。

愚溪寺(岐阜県可児郡御嵩町中2635-1)は、1396年に現在の愚溪寺より山側に創建(旧愚溪寺)、現在の位置に移築(1830年~1844年)された。枯山水の庭園として知られ、33箇所霊地庭園など庭園がある。

調査内容は管理について、過去と現在の庭園の変化である。

(1) 管理について

愚溪寺庭園はよく管理されている。庭全体を見るとツツジが多く、アカマツやヒバなども多く植栽されていた。日常の管理については住職が掃除やツツジなどの低木の刈込など剪定をおこなっている。ただし、特にアカマツといった高木の剪定、また、お盆や正月などの寺院の行事があるときは業者や檀家の方々に頼んでいるという。

(2) 過去と現在の庭園の変化

過去の資料や写真により、庭園が変化していることが分かった。また、住職に対するヒアリングもおこなった。

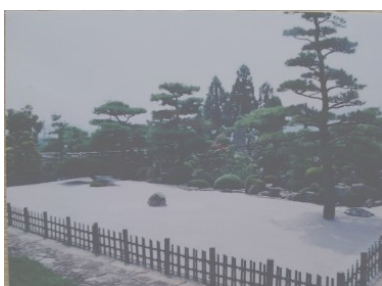


写真-1～3 愚溪寺庭園
年～1994年⁵⁾、2023年撮影)

(左から 1955 年以前⁴⁾、1991

写真-1 から 3 を見比べてみると、石の配置は変わっていないが、石の脇の植栽が大きく変わっていることが分かる。写真-1 を見ると右端の石にはアカマツとヒメクチナシ、中央の石にはモミジと雑木、写真では確認できないが住職の話によると、左端の石にはビヤクシンが植栽されている。しかし、写真-2 を見ると右端の石のヒメクチナシ、中央の石の植栽がなくなっている。そして、写真-3 を見ると右端のアカマツもなくなってしまった。左端のビヤクシンは残っており、ツツジが追加されている。

6. まとめ

現地調査をおこなってみて、現地調査を行う際は事前調査が大変重要だと分かった。事前に知っておくことで様々な視点から質問ができるので、論文をまとめやすくすることができた。過去と現在の庭園の変化は古写真を用いたことで分かりやすく分析することができた。樹木がなくなってしまったことは残念だが、すべての植物を追加するのではなく、現状を維持しながら庭園を管理していた。

参考文献

- 1) 田上一世 (1980) : 岐阜県造園史、岐阜県造園緑化協会
- 2) 庭園情報メディア【おにわさん】<https://oniwa.garden/>
- 3) 加藤友規・清水一樹・阪上富男 (2017) : 山県有朋記念館所蔵の古写真に見る往時の無鄰菴庭園に関する研究、ランドスケープ研究、80 巻 5 号、p. 447-452
- 4) 奥村智咲 (1959) : 古禅林愚溪寺史、大智山愚溪寺
- 5) 愚溪寺住職提供